

iS-J Plus

アイエスジェイプラス

取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。

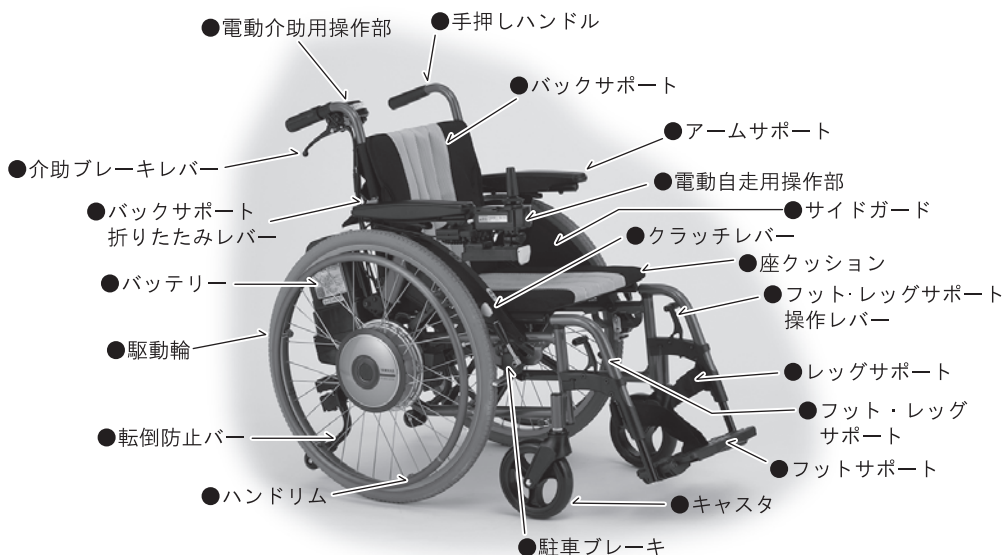
製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。

ご使用前に必ずお読みください。

なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

電動走行ユニットメーカーの取扱説明書も、本書とあわせてお読みいただき、記載の取扱方法をおまもりください。

各部の名称



出荷時は運送時の安全上の理由でフットサポート外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、P 5をご覧ください。

仕様・サイズ

- 全長：105cm(105cm) ●全幅：66cm(42cm) ●全高：88cm(77cm)
- シート幅：40cm ●シート奥行：40cm ●前座高：44cm ●後座高：41cm
- バックサポート高：40cm ●アームサポート高：調整式24.5～30cm
- キャスト：7インチ ●重量：28.7kg【座クッション及びバッテリー含まず】
- 耐荷重：100kg【積載物を含む】
- 電動走行ユニット：ヤマハ製24インチ・ニッケル水素バッテリー・最高速度4.5km/h仕様

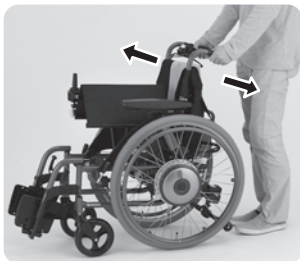
※寸法の()は折りたたみ時の値です。

使用時適正タイヤ空気圧

6.5PSI (450kPa / 4.5BAR)

車いすの拡げかた

- 1 手押しハンドルを持って軽く左右に拡げてください。
- 2 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下方へ押し下げます。

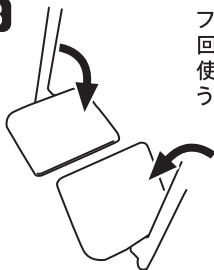



注意
警告



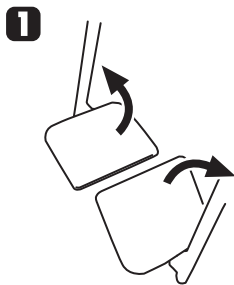
押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

3



フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。

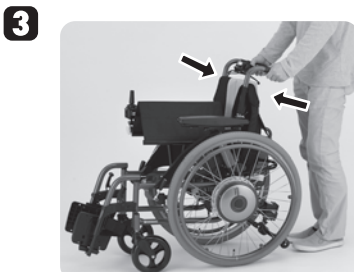
車いすの折りたたみかた



1 フットサポートプレートを上方へ回転させて収納します。



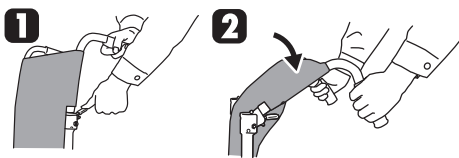
2 座面シートの、前後中央部を持ち上げます。



3 手押しハンドルを持って、左右から押し縮めるように折りたたんでください。

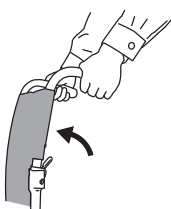
バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ず確認してください。

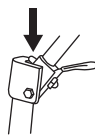


警告

車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。



注意



● 矢印の部分に手や指を置かないでください。
● 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

駆動輪の操作のしかた <クラッチレバーが手動側の場合のみ>



- ・乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押したり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- ・走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。

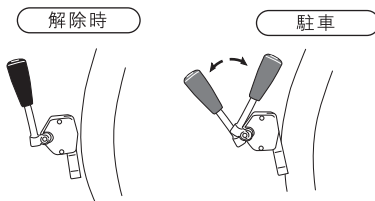


注意

タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

駐車ブレーキのかけかた

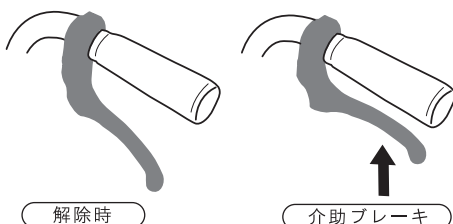
- レバー先端のノブを手で前方に押す、もしくは後方に引くと駐車ブレーキがかかります。中間の位置が解除です。



注意
警告

- しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力が加かる行為はしないでください。

介助ブレーキのかけかた



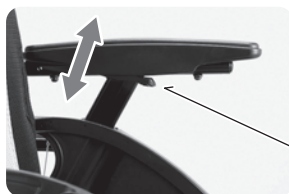
介助ブレーキレバーを握ると介助ブレーキがかかります。



禁止

介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

アームサポート高の調整のしかた



アームサポートパッド下のレバーを指で上に上げると、アームサポート高調整用のロックが外れ、アームサポート高を上下に調整することができます。

アームサポート高調整用レバー



注意

- 調整後やご使用・乗り降りの際は、アームサポート高調整のロックが確実にはたらき、アームサポート高がしっかりと固定されていることを確認してください。
- アームサポート高を下げるときには、ゆっくりと下げてください。アームサポートとサイドガードで指をはさんでケガをしないようにご注意ください。

アームサポートの跳ね上げのしかた・もどしかた



アームサポートパッドを持ち、上に持ち上げるようにして後方にアームサポートを跳ね上げることができます。戻すときはアームサポートパッドを持ち、前方に倒すように戻してください。



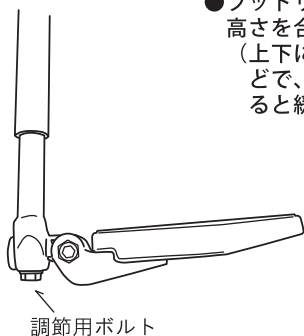
車いすを持ち運ぶ際は、アームサポート・アームサポートパッドを持って運ばないでください。アームサポートが跳ね上がり、落下や事故の原因となります。



注意
警告

- ・アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- ・戻すときには、アームサポートとサイドガードの間に、身体や衣服を挟まないように注意してください。

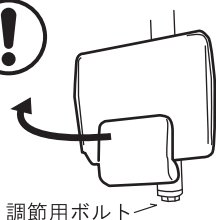
フットサポートの調節のしかた



- フットサポート下端の調節用ボルトを13mmのスパナで緩めて、高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。(上下にスライドしにくい場合は、プラスチック製ハンマーなどで、調節用ボルトを下からたたくようにショックをあたえると緩みます。)



- ・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。
- ・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最
- ・下端部を、地面から5 cm以上あけてください。フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。

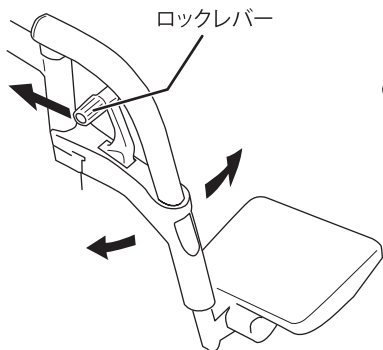


出荷時

出荷時はフットサポートを、外側に回転させて収納している場合があります。調節用ボルトを緩めて、内側に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた

開閉のしかた・はずしかた



※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- ロックレバーを倒しながら、フット・レッグサポートを内側・外側へ回転させることで、フット・レッグサポートの開閉（スイングイン&スイングアウト）ができます。

※フットサポートプレートがあたって、内側に回転できない場合は、フットサポートプレートを跳ね上げてから操作をしてください。



- フット・レッグサポートを外側へ90°程回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

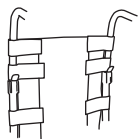
取付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に90°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
- ②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。
- ③フット・レッグサポートがフレームに固定されていることを確認してください。（フット・レッグサポートが左右に動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。）

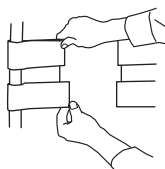


車いすを持ち運ぶ際は、フット・レッグサポートを持って運ばないでください。
車いすを持ち上げているときにフット・レッグサポートが外れると、落下や事故の原因となります。

バックサポートの張り具合の調整のしかた



1. バックサポートの OUTER SHEET をはずしてください。

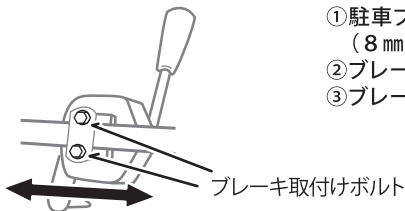


2. 任意に面ファスナーベルトを緩めて調整し、しっかりと面ファスナーベルトを貼り合わせて固定してください。
3. バックサポート OUTER SHEET をかぶせて完成です。



- ・使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず一本ずつはずして調整してください。2本以上を同時にはずすと、乗車者が落下しケガをするおそれがあります。
- ・バックサポートの張り調整は、必ず駐車ブレーキをかけた状態でおこなってください。
- ・ベルトは2cm程度たるませるのが限界です。それ以上たるませると、面ファスナーの効きが弱くなり、ベルトがはずれる可能性があります。

駐車ブレーキの調節方法



- ① 駐車ブレーキのブレーキ取付けボルトを緩めます。
(8 mmのスパナを使用します。)
- ② ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ ブレーキ取付けボルトをしっかり締めて固定し、完了です。



使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ取付けボルトとブレーキ取付けプレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

使用前点検 (必ず行ってください)

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
※特に、駐車ブレーキの取付け部や、車輪軸部は確実に確認してください。
- シート・ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
- 駆動輪の空気圧は適切かどうかご確認ください。(不足している場合は補充してください)
- 駆動輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
- 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
- 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
- 前輪キャスタが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
- 手押しハンドルが本体フレームにしっかりと固定されているかご確認ください。
- 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

メンテナンス・保管方法

- ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、定期的に行ってください。
- 各部のメンテナンス(調節・補修・修理・部品交換等)はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けて下さい。



注意・警告

主に製品を使用する前にご注意をいただくことや、メンテナンス等についての注意

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用中を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
- 水にぬれた場合、そのままにしておくとう製品に錆びやカビが出る場合があります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。

主に製品を使用中・走行中にご注意をいただくこと

- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- 身体寸法や身体の状況が車いすに合わない場合は使用をしないでください。からだに合わない状況で製品を使用すると、製品の故障や事故、身体への悪影響につながるおそれがあります。
- シートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。ベルトを極端にきつく張りすぎていても、車いすの折りたたみ動作や可動に悪影響を及ぼし、破損や事故につながるおそれがあります。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるとような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 乗車中に大きな前かがみの姿勢をとらないでください。（例：足下や前方にあるものを触ろうとしたり、拾おうとして、前かがみの姿勢にならないようにご注意ください）。バランスをくずして車いす及び乗車者が前方に転倒するおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーターの出入り口付近、エレベーター、自動ドア等の付近で使用する際は注意してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪・キャスタ輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けしないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。

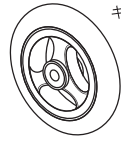
その他にご注意をいただくこと

- フレームの座面下側や、車輪、各部の隙間等に手を入れしないでください。各部が動いたり、でっばりに手を触れたりすると、ケガのおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやフット・レッグサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。）
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいらっしゃる場合は、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。



ウレタン素材には **寿命** があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



クッション
キャスト輪

など

MEMO

保証規定

I. 保証の範囲

- 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
- 保証期間はお買い上げ後1年間です。
- 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - 取扱い過誤による故障。
 - 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - 消耗部品、タイヤなど。
 - 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - 保証書のご提示がない場合。
- 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
- この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1年間」無償にて修理致します。

機種	iS-J Plus						
お客さま	ご住所	〒					
	(フリガナ) ご氏名	TEL					
お買い上げ日	年	月	日	保 証 有効年月日	年	月	日 まで
販 売 店							
総販売元							
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787						

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35番地の2
TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787

東京営業所 〒112-0002 東京都文京区小石川 1-21-14
TEL<03>3814-0923(代) FAX<03>3814-4644

大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10
TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554

九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8
TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、お住まいの自治体のルールに従ってください。